

国語科学習指導案

日 時 平成24年11月9日(金) 公開授業 I
生 徒 1年3組 (男子19名 女子19名 計38名)
授業者 及川 仁美

- 1 単元名 4 いにしへの心にふれる
教材名 蓬萊の玉の枝 — 「竹取物語」から (光村図書1年)

2 単元について

(1) 教材について

本教材は、生徒が中学生になって初めて接する古典単元の三つ目の教材である。古典を理解する基礎を養い、古典に親しむ態度を育てることをねらいとして設定されている。音読を中心とした「いろは歌」、古人の思いを知る「七夕に思う」に続き、初めての物語文としての本教材は、「かぐや姫」の物語として生徒には良く知られた親しみやすい文章である。物語自体を楽しみながら、仮名遣いや古語の意味、文末の表現など古典学習の基礎を養うことができる。

物語を読み、昔の人の物の見方や考え方に触れる中で、現代と生活の様子は違っても、変わることはない人間の生き方を感じさせ、楽しく古典学習に取り組む姿勢を育てたい。

(2) 生徒について

古典に対する興味関心は高く、意欲的に学習に取り組む姿勢がある。音読にも前向きに取り組むが、女子を中心に大きな声で話すことを苦手とする生徒が多いため、何度も練習して慣れる中で音読の楽しさを味わわせたい。話し合いの場面は入学当初から意識的に設定してきたが、まだまだ発展途上である。今回も小グループ活動を取り入れることで、積極的な意見交流を仕組みたい。

(3) 指導にあたって

中学校の古典学習の導入であることから、古文を理解する基礎を養うため、音読を多く取り入れ、古文独特のリズムに読み慣れさせたい。また、単純に古語の意味を理解させて内容を確認するという流れではなく、積極的に考えたいと思うような課題を中心に据え、文章を読み込むような場を設定して理解を深めさせたい。

3 単元の目標

- (1) 「竹取物語」の面白さを味わわせ、古典文学に対する興味や関心を持つとする。
(関心・意欲・態度)
- (2) 句の意味や古文の表現の特徴に注意して、物語の展開、あらすじを理解することができる。
(読む)
- (3) 当時の人々の生活や文化、ものの見方や考え方を、現代と比較して捉えることができる。
(読む)
- (4) 音読に多く親しませ、場面の状況や心情を想像しながら音読することができる。(読む)
- (5) 古文の仮名遣いや言葉遣い、古語の意味を理解することができる。(伝国)

4 単元の評価規準

【観点1】 国語への関心・意欲・態度	【観点4】 読む能力	【観点5】 言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・古人のものの見方や考え方に関心をもち、進んで古典を読もうとしている。 ・本文を読み、物語の根拠となる部分を探そうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代語訳や解説文を参考に話の内容のあらすじをとらえ、内容をふまえて音読している。 ・登場人物の行動や心の動きから、古人のものの見方や考え方を、現代の自分たちと比較して考えをまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古文、現代語訳、脚注を参考に歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、言葉遣いや古語の意味を理解している。

5 指導計画 【5時間】

- (1) 学習の見通し。「竹取物語」の背景の理解。冒頭の場面の内容把握と音読。
- (2) 「五人の貴公子の話」の内容理解と音読。
- (3) 「蓬萊の玉の枝」の場面の内容把握と音読。・・・・・・・・・・・・・・・・[本時]
- (4) 「姫の昇天」の場面の内容把握と音読。
- (5) 音読発表会の実施。単元の振り返り。

6 本時について

(1) 目標

- ① 「蓬萊の玉の枝」の場面の内容を、現代文に照らし合わせながら読み取ることができる。
- ② 「くらもちの皇子」の心情を想像しながら、正しく、楽しんで音読することができる。

(2) 本時の指導構想

今年度重点として指導している、「表現するための技能の習得」と「表現活動の場の充実」を中学校古典学習の導入段階でどのように仕組むことができるかを考え、本授業を設定した。

まず、繰り返し音読練習をすることで古文のリズムに慣れるとともに、声を出すことの気持ちよさや楽しさを感じさせたい。そのことが、ひいては他の発表場面での抵抗感の軽減にもつながると考える。

また、言語活動を充実させるために、個で考えた後に小グループでの意見交流の場を設定する。お互いの意見を出し合うことで、自分の意見がより明確になったり、自信を持ったり、見方を広げたりするきっかけとしたい。その際、よりよい「話し手」「聞き手」となるために、自分の意見を正しく伝えるための話し方と、相手の意見を正しく受け止め対応する姿勢を重視する。

登場人物の心情を想像し、根拠を持って音読することで、表現する楽しさを味わわせたい。

(3) 本時の評価規準

評価規準	概ね満足できると判断される状況【B】	十分満足できると判断される状況【A】	評価の方法
【観点1】 くらしの皇子の作り話の巧みさについて、主体的に意見交流しようとしている。	自分の意見を伝え、他の意見を受け止めようとしている。	自分の意見を積極的に伝え、他の意見を自分の意見と比較しながらしっかりと受け止めようとしている。	観察
【観点4】 くらしの皇子の作り話の巧みさを文章中から指摘している。	くらしの皇子の作り話の巧みな部分を、文章中から指摘できる。	くらしの皇子の作り話の巧みさを、根拠を持って文章中から指摘できる。	観察 学習シート 発言
【観点5】 古文を歴史的仮名遣いや言葉遣いに注意して正しく音読している。	仮名遣いや言葉遣いに注意して正しく音読している。	仮名遣いや言葉遣いに注意し、文章の内容や古語の意味を生かして音読している。	観察

努力を要する生徒【C】への支援の手立て

<p>【観点1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シートをたよりに発言をするようにさせ、聞き取ったことをメモするように促す。 <p>【観点4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皇子が話した内容を解説をヒントに確認させる。 <p>【観点5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで聞き合わせ、正しい読みを確認させる。机間巡視でアドバイスをする。
--

(4)展開

過程	学習内容と活動	指導上の留意点 ※評価	備考
導入 10分	1 前時の振り返り ・「いろは歌」「七夕に思う」「蓬萊の玉の枝①の部分」を全員で音読する。 ・5人の貴公子の物語の共通点を確認する。 2 学習課題の確認 ・くらもちの皇子について学習することを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> くらもちの皇子の作り話は、どこがうまいのか考え、音読を工夫しよう。 </div>	・はっきりと元気よく音読させる。 ・暗誦できる生徒には促す。 ・「美しいものへの憧れ」や「今に伝わる言葉が生まれる」等を確認。 ※観点5 ・皇子が一度は翁を信じさせ、姫を追い詰めたことを知らせる。(和歌2首を紹介)	紙板書 【翁】くれ竹のよよの竹とり野山にもさやはわびしきふしをのみ見し 【姫】まことかと聞きて見れば言の葉を飾れる玉の枝にぞありける
展開 37分	3 授業の流れの確認 4 原文の音読と、対応する現代語訳の確認をする。 5 くらもちの皇子の作り話はどこがうまいのかを考える。 ・話の中で、特にうまいと思われる箇所を指摘させる。 ①個人で考える。 ②グループで意見交換をする。 ③発表する。 6 内容を考えながら、原文を音読する。	・原文の音読のあと、対応する現代語訳を確認していく。 ・注意すべき語句や言葉の決まり等については本時では詳しくは扱わず、大意を確認するに留める。 ※観点4 ※観点1 ・「これは蓬萊の山なり」「いとわろかりしかども・・・」「恐ろしくおぼえて」「二三日ばかり見歩くに」など ・皇子の様子を想像しながら、皇子になったつもりで読んでみるように促す。 ※観点5 ・音読発表会へ向けて、意欲付けを行う。	学習プリント ふせん ・グループの意見を可視化するために、黒板に貼った拡大版にふせんを貼り付けさせる。
終末 3分	7 本時のまとめ	7 本時を振り返り、自己評価させる。	自己評価表